

主な医薬品とその作用（40問）

【問61】 解熱鎮痛薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしやすく、アスピリンアルミニウム等として胃粘膜への悪影響の低減を図っている製品もある。
- b サザピリンは、ピリン系の解熱鎮痛成分であり、ピリン疹^{しん}と呼ばれるアレルギー症状をもたらすことがある。
- c アセトアミノフェンは主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- d イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

【問62】 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a かぜの約8割はウイルス（ライノウイルス、コロナウイルスなど）の感染が原因であり、細菌の感染は原因とはならない。
- b 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
- c かぜ薬は、かぜの諸症状の緩和のほか、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去することを目的として使用される医薬品の総称である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	正	誤

【問 6 3】 カフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- b 副作用として動悸が現れることがあるため、心臓病のある人は、服用を避ける。
- c 反復摂取により依存を形成する性質がある。
- d 摂取されたカフェインは乳汁中に移行しない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	誤

【問 6 4】 眠気を促す薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジフェンヒドラミン塩酸塩を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として一時的な睡眠障害の緩和に用いられることがある。
- b 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
- c プロモバレリル尿素は、少量でも眠気を催しやすく、それにより重大な事故を招くおそれがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問 6 5】 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

3錠中	
イブプロフェン	200 mg
L-カルボシステイン	250 mg
アンブロキシール塩酸塩	15 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	8 mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	20 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	2.5 mg
リボフラビン	4 mg

このかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a L-カルボシステインは、去痰成分である。
- b ジヒドロコデインリン酸塩は、非麻薬性鎮咳成分である。
- c d1-メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示す。
- d クロルフェニラミンマレイン酸塩は、抗ヒスタミン成分である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 6 6】 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 主として吐きけを抑えることを目的とした成分も配合されるため、つわりに伴う吐きけへの対処として使用される。
- b 副作用が強く現れるおそれがあるので、かぜ薬やアレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）等との併用は避ける必要がある。
- c 3歳未満では乗物酔いが起こることはほとんどないとされており、3歳未満の乳幼児向けの製品はない。
- d 眠気を促す成分は入っていないため、服用後に車の運転をしても問題ない。

1 (a、b)	2 (a、c)	3 (b、c)	4 (b、d)	5 (c、d)
---------	---------	---------	---------	---------

【問 6 7】 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、抗コリン作用を有する成分で、他の抗コリン成分と比べて脳内に移行しやすいが、肝臓での代謝が遅いことから、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間は長い。
- c ニコチン酸アミドは、吐きけの防止に働くことを期待して補助的に配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問 6 8】 小児の疳を適応症とする生薬製剤の成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ゴオウは、動物の角を基原とする生薬で、緊張を鎮める作用を期待して用いられる。
- b レイヨウカクは、ジンチョウゲ科の植物の材、特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着した部分を採取したものを基原とする生薬で、鎮静、健胃、強壮などの作用を期待して用いられる。
- c ジンコウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で緊張や興奮を鎮め、血液の循環を促す作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	誤
4	正	正	正

【問 69】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- b 噴射式の液剤では、軽く息を吐きながら噴射することが望ましい。
- c トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、口の中に含み、噛まずにゆっくり溶かすようにして使用する。
- d 口腔咽喉薬及び含嗽薬は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身的な影響を生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	正	誤

【問 70】 咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤及び生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a キョウニン^{せき}はヒメハギ科のイトヒメハギの根を基原とする生薬で、去痰^{たん}作用を期待して用いられる。
- b 麦門冬湯^{ばくもんどうとう}は、体力中等度以下で、痰^{たん}が切れにくく、ときに強く咳^{せき}こみ、又は咽頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされるが、水様痰^{たん}の多い人には不向きとされる。
- c 神秘湯^{しんぴとう}に含まれるマオウは、中枢神経系に対する作用が他の気管支拡張成分に比べ強いとされ、依存性がある。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

【問 7 1】 次の表は、ある鎮咳去痰薬（がい たん）に含まれている成分の一覧である。

成人 1 日量（12錠）	
コデインリン酸塩水和物（リン酸コデイン）	50 mg
d 1-メチルエフェドリン塩酸塩	75 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	12 mg
無水カフェイン	60 mg
セネガ乾燥エキス	89.82 mg
（原生薬換算量）	（1500 mg）

この鎮咳去痰薬（がい たん）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コデインリン酸塩水和物は、胃腸の運動を低下させる作用を示し、副作用として便秘が現れることがある。
- b 一般用医薬品に含まれるコデインリン酸塩水和物に、依存性はない。
- c d 1-メチルエフェドリン塩酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- d クロルフェニラミンマレイン酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息（せきぜん）の症状を鎮めることを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問 7 2】 センソに関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 微量で強い強心作用を示し、配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕いて服用することとされている。
- b ヒキガエル科のアジアヒキガエル等の耳腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬である。
- c 一般用医薬品では、通常用量であれば、悪心（吐きけ）、嘔吐（おう）の副作用が現れることはない。
- d 一般用医薬品では、1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められている。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 7 3】 強心薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬であり、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- b ロクジョウは、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- c リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	誤
4	正	正	正

【問 7 4】 高コレステロール改善薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a リノール酸は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- b 大豆油不けん化物（ソイステロール）は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c ビタミンEは、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正

【問 7 5】 貧血及び貧血用薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 鉄分の摂取不足が生じて、初期には貯蔵鉄や血清鉄が減少するのみで、ただちに貧血の症状は現れない。
- b ビタミンB₆は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを主な目的として用いられる。
- c ビタミンB₁₂が不足して生じる巨赤芽球貧血は、悪性貧血と呼ばれる。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	誤

【問 7 6】 婦人薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a エチニルエストラジオールは、長期連用することにより、血栓症を生じるおそれがある。
- b エチニルエストラジオールを含有する婦人薬において、外用薬は製造販売されていない。
- c モクツウは、滋養強壮作用を目的として配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	誤

【問 7 7】 内服アレルギー用薬に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a フェキソフェナジン塩酸塩は、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として配合されている。
- b メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。
- c フェニレフリン塩酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す成分として用いられる。
- d ベラドンナ総アルカロイドは、鼻腔内の粘液分泌腺からの粘液の分泌を抑えるとともに、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合されている場合がある。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 7 8】 パーキンソン病の治療のために医療機関でセレギリン塩酸塩を処方されて治療を受けている人が鼻炎用内服薬を探し、医薬品の販売業の店舗に来店した。セレギリン塩酸塩等のモノアミン酸化酵素阻害剤と併用することで、副作用が現れやすくなる恐れが高く、使用を避ける必要がある鼻炎用内服薬の配合成分は次のうちどれか。

- 1 ロラタジン
- 2 プソイドエフェドリン塩酸塩
- 3 ベラドンナ総アルカロイド
- 4 トラネキサム酸
- 5 ジフェンヒドラミン塩酸塩

【問 79】 鼻に用いる薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- b ベンザルコニウム塩化物は、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌、結核菌、ウイルスに殺菌消毒効果がある。
- c 鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。
- d 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎^{くう}の他、蓄膿症^{のう}などの慢性のものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問 80】 一般用検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 専ら疾病の予防に使用されることが目的とされる医薬品のうち、人体に直接使用されることのないものを体外診断用医薬品という。
- b 体外診断用医薬品は、全て一般用検査薬であり、薬局又は医薬品の販売業（店舗販売業、配置販売業）において取り扱うことが認められている。
- c 一般用検査薬を販売するときは、検査項目によっては、プライバシーに配慮した形で製品の説明を行うことが望ましい。
- d 一般用検査薬が高温になる場所に放置されたり、冷蔵庫内に保管されていたりすると、設計どおりの検出感度を発揮できなくなるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問 8 1】 胃腸に作用する薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬部外品として製造販売されている製品もあるが、それらは人体に対する作用が緩和なものとして、配合できる成分やその上限量が定められている。
- b オウバク、ケイヒ等の生薬成分を配合した健胃薬は、味や香りが強いため、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用することが適当である。
- c セトラキサート塩酸塩は、体内で代謝されてトラネキサム酸を生じることから、出血傾向が強くなるおそれがある。
- d ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	誤
5	正	誤	正	正

【問 8 2】 胃腸に作用する薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 制酸成分を主体とする胃腸薬については、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられる。
- b 安中散、人参湯（理中丸）、平胃散、六君子湯は、いずれもカンゾウを含む。
- c 一般用医薬品で、制酸と健胃のように相反する作用を期待するものが一緒に配合されることはない。
- d ゲファルナートはアルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

【問 8 3】 胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれる抗コリン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 抗コリン作用を示すアルカロイドを豊富に含む生薬成分として、ロートエキスが用いられる。
- b 排尿困難の症状がある人に使用すると、排尿困難の症状を悪化させるおそれがある。
- c 抗コリン成分が配合された医薬品を使用した後は、眠気等が現れることがあるため、自動車の運転を避ける必要がある。
- d 抗コリン成分には、ブチルスコポラミン臭化物、ジサイクロミン塩酸塩、パパペリン塩酸塩がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	正	誤

【問 8 4】 浣腸薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 直腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。
- b グリセリンが配合された浣腸薬が、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- c ソルビトールは、直腸内で徐々に分解して微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- d 炭酸水素ナトリウムは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 8 5】 腸及び腸に作用する薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 急性の下痢の主な要因として、体の冷えや消化不良、細菌やウイルス等の消化器感染、緊張等の精神的なストレスがある。
- b トリメブチンマレイン酸塩は、重篤な副作用として肝機能障害を生じることがあるため、肝臓病の診断を受けた人では、使用する前にその適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談するべきである。
- c タンニン酸ベルベリンに含まれるベルベリンは、牛乳に含まれるタンパク質から精製される成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	正	正

【問 8 6】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なものの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常醗酵、痔などの症状の緩和に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。また、本剤を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避ける必要がある。

- 1 牛車腎気丸ごしゃじんきがん
- 2 四物湯しもつとう
- 3 黄連解毒湯おうれんげどくとう
- 4 麻子仁丸ましにんがん

【問 8 7】 駆虫薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すため併用する瀉下薬として、ヒマシ油を用いる。
- b 駆虫薬は、食事を摂って消化管内に内容物があるときに使用すると、消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、食後に使用することとされているものが多い。
- c 駆虫薬は、一度に多く服用しても駆虫効果が高まることはなく、かえって副作用が現れやすくなるため、定められた1日の服用回数や服用期間を守って適正に使用されることが重要である。
- d 駆虫薬は、腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問 8 8】 痔疾用薬の配合成分とその配合目的との関係について、正しいものの組合せはどれか。

	配合成分		配合目的
a	デカリニウム塩化物	—	殺菌消毒作用
b	ジフェンヒドラミン塩酸塩	—	局所麻酔作用
c	アミノ安息香酸エチル	—	収斂保護止血作用
d	プレドニゾロン酢酸エステル	—	抗炎症作用

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問 89】 痔及び痔疾用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より下部の、肛門の出口側にできた痔核を外痔核と呼び、排便と関係なく、出血や患部の痛みを生じる。
- b 痔瘻は、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって、炎症・化膿を生じた状態をいう。
- c 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、クロタミトンのような組織修復成分が用いられる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	正	正
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正

【問 90】 点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 点眼薬は、結膜囊に適用するものであるため、通常、無菌的に製造されている。
- b 点眼薬は、薬液が結膜囊内に行き渡るよう一度に数滴点眼することで効果が増す。
- c 医師から処方された点眼薬を使用している場合には、一般用医薬品の点眼薬を併用すると、治療中の疾患に悪影響を生じることがある。
- d 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 9 1】 眼科用薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組合せはどれか。

	配合成分		配合目的
a	ケトチフェンフマル酸塩	—	目の痒み ^{かゆ} を和らげる
b	イプシロン-アミノカプロン酸	—	目の炎症を改善する
c	ネオスチグミンメチル硫酸塩	—	目の充血を除去する
d	アズレンスルホン酸ナトリウム	—	炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 9 2】 皮膚に用いる薬及び殺菌消毒成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 外皮用薬は、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされる。
- b アクリノールは、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌^{のう}）、真菌、結核菌、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。
- c ヨードチンキは、皮膚刺激性が強く、粘膜（口唇等）や目の周りへの使用は避ける必要がある。
- d クロルヘキシジングルコン酸塩は、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正

【問 9 3】 皮膚に用いる薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ケトプロフェンには、殺菌作用があり、皮膚感染症に対して効果がある。
- b 一般用医薬品のインドメタシンを主薬とする外皮用薬は、小児への使用について有効性・安全性が確認されているため、11歳未満の小児に使用できる。
- c ピロキシカムは、光線過敏症の副作用を生じることがあり、野外活動が多い人では、他の抗炎症成分が配合された製品を選択することが望ましい。
- d デキサメタゾン^カは、外用の場合、末梢組織（患部局所）における炎症を抑える作用を示し、特に、痒み^{かゆ}や発赤などの皮膚症状を抑えることを目的として用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 9 4】 歯や口中に用いる薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 歯痛薬（外用）は、歯痛を鎮め、歯の齶蝕^{うしよく}を修復することを目的とする一般用医薬品である。
- b 歯周炎（歯槽膿漏^{のう}）には、歯肉溝での細菌の繁殖を抑えることを目的として、セチルピリジニウム塩化物等の殺菌消毒成分が配合されている場合がある。
- c 口内炎用薬は口腔内を清浄^{くう}にしてから使用することが重要であり、口腔咽喉薬、含嗽薬^{そう}などを使用する場合には、十分な間隔を置くべきである。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	正	正
5	正	誤	誤

【問 9 5】 禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 禁煙補助剤は、ニコチン置換療法に使用される、ニコチンを有効成分とする医薬品である。
- b 禁煙補助剤には、噛むことにより口腔内でニコチンが放出され、口腔粘膜から吸収されて循環血液中に移行する咀嚼剤と、1日1回皮膚に貼付することによりニコチンが皮膚を透過して血中に移行するパッチ製剤がある。
- c 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が増加するため、咀嚼剤は口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- d 心臓疾患、脳血管障害、腎臓病などの診断を受けた人では、使用している治療薬の効果に影響を生じたり、症状を悪化させる可能性があるため、禁煙補助剤を使用する前にその適否につき、治療を行っている医師又は処方薬を調剤した薬剤師に相談するなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	誤	正

【問 9 6】 滋養強壯保健薬とその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ビタミンA主薬製剤は、妊娠・授乳期、病中病後の体力低下時、発育期等のビタミンAの補給に用いられる。
- b ビタミンC主薬製剤は、歯ぐきからの出血・鼻血の予防、肉体疲労時、病中病後の体力低下時、老年期におけるビタミンCの補給に用いられる。
- c ビタミンD主薬製剤は、ピリドキシン塩酸塩又はピリドキサーリン酸エステルが主薬として配合された製剤で、骨歯の発育不良、くる病の予防、老年期のビタミンDの補給に用いられる。
- d ビタミンEの過剰症としては、高カルシウム血症、異常石灰化が知られている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問 9 7】 漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 漢方処方製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- b 漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
- c 一般用漢方製剤に用いることができる漢方処方は、現在 300 処方程度である。
- d 漢方処方製剤は、処方に基づく生薬混合物の浸出液を濃縮して調製された乾燥エキス製剤を散剤等に加工したもののみ市販されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	誤

【問 9 8】 次の表は、ある痔疾用薬に含まれている成分の一覧である。

2包中	
トウキ	3.0 g
サイコ	2.5 g
オウゴン	1.5 g
カンゾウ	1.0 g
ショウマ	0.5 g
ダイオウ	0.25 g

この痔疾用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a オウゴンはシソ科のコガネバナの周皮を除いた根を基原とする生薬であり、主に抗炎症作用を期待して用いられる。
- b サイコはセリ科のミシマサイコの根を基原とする生薬であり、抗炎症、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- c ショウマはモクセイ科のレンギョウの果実を基原とする生薬であり、発汗、解熱、解毒、消炎等の作用を期待して用いられる。
- d ダイオウは吸収された成分の一部が乳汁中へ移行するため、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

【問 9 9】 消毒薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a イソプロパノールのウイルスに対する不活性効果は、エタノールよりも低い。
- b クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。
- c 有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられている。
- d 消毒薬を誤飲した場合の一般的な家庭における応急処置として、多量の牛乳を飲ませる方法がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 1 0 0】 殺虫剤・忌避剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 殺虫補助成分とは、それ自体の殺虫作用は弱い、又はほとんどないが、殺虫成分とともに配合されることにより殺虫効果を高める成分であり、ピリプロキシフェンやジフルベンズロンなどがある。
- b スプレータイプの忌避剤を使用した場合、塗りむらがあると忌避効果が落ちるため、手で塗り拡げるなどして、必要以上に使用しないことが重要である。
- c 蒸散剤は空間噴射の殺虫剤であり、容器中の医薬品を煙状又は霧状にして一度に全量放出させて使用する。
- d 乳剤タイプの殺虫剤は原液を水で希釈して使用するもので、包装単位が大きい製品が多く、通常、個人で用いるよりも地域ぐるみの害虫駆除で使用される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 添付文書の内容は変わるものであり、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、半年に1回の改訂が義務づけられている。
- b 添付文書の販売名の上部に、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要なときに読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。
- c 製品の特徴は、医薬品を使用する人に、その製品の概要を分かりやすく説明することを目的として記載されている。
- d 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際には、その添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談することが重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 1 0 2】 医薬品の適正使用情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報（適正使用情報）を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- b 一般用医薬品の添付文書の記載は、専門的な表現でなされており、一般の生活者には理解しにくいものになっている。
- c 薬剤師又は登録販売者は、添付文書等に記載されている内容を的確に理解した上で、その医薬品を購入し、又は使用する個々の生活者の状況に応じて、積極的な情報提供が必要と思われる事項に焦点を絞り、効果的かつ効率的な説明を行うことが重要である。
- d 要指導医薬品、一般用医薬品及び薬局製造販売医薬品には、添付文書又はその容器若しくは被包に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載が医薬品医療機器等法で義務づけられている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問 1 0 3】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 眠気や異常なまぶしさ等を引き起こす成分が配合されている内服用医薬品では、服用すると重大な事故につながるおそれがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載されている。
- b 局所に適用する医薬品は、患部の状態によっては症状を悪化させたり、誤った部位に使用すると副作用を生じたりするおそれがあることから、それらに関して、使用を避けるべき患部の状態、適用部位等に分けて、「次の部位には使用しないこと」の項に、簡潔に記載されている。
- c 重篤な副作用として、中毒性表皮壊死融解症、喘息等が掲げられている医薬品では、「次の人は使用（服用）しないこと」の項にアレルギーの既往歴がある人等は使用しないこととして記載されている。
- d 医療用医薬品との併用について、作用の増強、副作用等のリスクの増大が予測されるため、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「医師（又は歯科医師）の治療を受けている人」と記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 1 0 4】 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品を旅行や勤め先等へ携行するために別の容器へ移し替えると、日時が経過して中身がどんな医薬品であったか分からなくなってしまうことがあり、誤用の原因となるおそれがある。
- b カプセル剤は、冷蔵庫内から取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがないため、冷蔵庫内での保管が適当である。
- c 点眼薬は、複数の使用者間で使い回されると、万一、使用に際して薬液に細菌汚染があった場合に、別の使用者に感染するおそれがあるため「他の人と共用しないこと」とされている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	誤	正	正

【問 1 0 5】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後 3 年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において医薬品医療機器等法上の表示義務はない。
- b 購入者等が購入後に製品を開封し、添付文書を見て初めて、自分にとって適当な製品でなかったことが分かるといった事態等を防ぐため、添付文書の内容のうち、効能・効果、用法・用量等が、外箱等にも記載されている。
- c 購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。
- d 専門家への相談勧奨に関する事項については、症状、体質、年齢等からみて、副作用による危険性が高い場合若しくは医師又は歯科医師の治療を受けている人であって、一般使用者の判断のみで使用する事が不適当な場合について記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	正	正	正

【問 1 0 6】 緊急安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 緊急安全性情報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について、緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に作成される。
- b 緊急安全性情報は、A 4 サイズの青色地の印刷物で、ブルーレターとも呼ばれる。
- c 緊急安全性情報は、(独) 医薬品医療機器総合機構による医薬品医療機器情報配信サービスによる配信、製造販売業者から医療機関や薬局等への直接配布、ダイレクトメール、ファックス、電子メール等による情報提供（1 ヶ月以内）等により情報伝達される。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	誤	誤
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	誤	正	正

【問 1 0 7】 (独) 医薬品医療機器総合機構のホームページに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 厚生労働省が製造販売業者等に指示した緊急安全性情報、「使用上の注意」の改訂情報が掲載されている。
- b 一般用医薬品の添付文書情報は掲載されているが、要指導医薬品の添付文書情報は掲載されていない。
- c 製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報が掲載されている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	誤	正	正

【問 1 0 8】 一般用医薬品を適正に使用するための情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般の生活者が接する医薬品の有効性や安全性等に関する情報は、断片的かつ必ずしも正確でない情報として伝わっている場合も多く、医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して科学的な根拠に基づいた正確なアドバイスを与え、セルフメディケーションを適切に支援することが期待されている。
- b 添付文書に「使用上の注意」として記載される内容は、その医薬品に配合されている成分等に由来することが多い。
- c 添付文書や外箱表示は、それらの記載内容が改訂された場合、実際にそれが反映された製品が流通し、購入者等の目に触れるようになるまでには一定の期間を要する。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	正	正	正

【問 1 0 9】 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 本制度は、医薬品の使用、販売等に携わり、副作用等が疑われる事例に直接に接する医薬関係者からの情報を広く収集することによって、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- b 医薬関係者は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を施設を所管する都道府県知事に報告しなければならない。
- c 本制度は、「医薬品副作用モニター制度」として 1967 年 3 月よりスタートした。
- d 登録販売者は、本制度に基づく報告を行う医薬関係者には含まれない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

【問 1 1 0】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 報告様式は、(独) 医薬品医療機器総合機構のホームページから入手できる。
- b 医薬品との因果関係が明確でない場合は、すべて報告の対象外である。
- c 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用によるものと思われる健康被害についても報告する必要がある。
- d 購入者等(健康被害が生じた本人に限らない)から適切に情報を把握し、報告様式の記入欄すべてに必要な事項を記入しなければ報告することができない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

【問 1 1 1】 次のうち、医薬品副作用被害救済制度の対象となる医薬品として、正しいものはどれか。

- 1 殺虫剤
- 2 個人輸入により入手された医薬品
- 3 人体に直接使用する殺菌消毒剤
- 4 日本薬局方収載医薬品であるワセリン

【問 1 1 2】 医薬品の安全対策に関する次の記述について、()の中に入れるべき共通の字句である正しい漢方製剤はどれか。

()による間質性肺炎については、1991年4月以降、使用上の注意に記載されていたが、その後、()とインターフェロン製剤の併用例による間質性肺炎が報告されたことから、1994年1月、インターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。しかし、それ以降も慢性肝炎患者が()を使用して間質性肺炎が発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996年3月、厚生省(当時)より関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布が指示された。

- 1 大柴胡湯だいさいこうとう
- 2 防己黄耆湯ぼういおうぎとう
- 3 黄連解毒湯おうれんげどくとう
- 4 防風通聖散ぼうふうつうしょうさん
- 5 小柴胡湯しょうさいこうとう

【問 1 1 3】 医薬品の適正使用のための啓発活動等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年 10 月 17 日～23 日の 1 週間を「薬と健康の週間」としている。
- b 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤、大麻等）により生じるものであり、一般用医薬品によって生じることはない。
- c 薬物乱用防止を一層推進するため、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が毎年 6 月 20 日～7 月 19 日までの 1 ヶ月間実施されている。
- d 違法な薬物の乱用は、乱用者自身の健康を害するが、社会的な弊害を生じることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	誤	正

【問 1 1 4】 次の表は、ある鼻炎用内服薬に含まれている成分の一覧である。

4 カプセル中	
プソイドエフェドリン塩酸塩	120 mg
ベラドンナ総アルカロイド	0.4 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	8 mg
サイシン乾燥エキス	40 mg(サイシン 400 mg に相当)
無水カフェイン	100 mg

この鼻炎用内服薬の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は服用しないでください」の項目に記載されている次の事項の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 高血圧
- b 糖尿病
- c 心臓病
- d 前立腺肥大による排尿困難

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	誤	正	正	誤

【問 1 1 5】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「本剤又は本剤の成分、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人」と記載されている成分等はどれか。

- 1 カゼイン
- 2 イブプロフェン
- 3 ロペラミド塩酸塩
- 4 プソイドエフェドリン塩酸塩

【問 1 1 6】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「妊婦又は妊娠していると思われる人」と記載されている主な成分・薬効群と、その理由の正誤について、正しい組合せはどれか。

	主な成分・薬効群		理由
a	ヒマシ油類	—	妊娠期間の延長、胎児の動脈管の収縮・早期閉鎖、子宮収縮の抑制、分娩時出血の増加のおそれがあるため。
b	エチニルエストラジオール	—	妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって、胎児の先天性異常の発生が報告されているため。
c	オキセサゼイン	—	妊娠中における安全性は確立されていないため。
d	ジフェンヒドラミン塩酸塩を主薬とする催眠鎮静薬（睡眠改善薬）	—	妊娠に伴う不眠は、睡眠改善薬の適用症状でないため。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

【問 1 1 7】 次の記述のうち、カンゾウ等のグリチルリチン酸を含む成分（1日用量がグリチルリチン酸として40mg以上、又はカンゾウとして1g以上を含有する場合）が配合された漢方生薬製剤の添付文書の使用上の注意に、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」と記載されている理由として、正しいものはどれか。

- 1 長期連用により、アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため。
- 2 副腎皮質の機能低下を生じるおそれがあるため。
- 3 偽アルドステロン症を生じるおそれがあるため。
- 4 海外において、長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があるため。

【問 1 1 8】 次の成分及び医薬品のうち、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるという理由から、一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用(服用)しないこと」の項目中に、「6歳未満の小児」と記載されているものはどれか。

- 1 水酸化アルミニウムゲル
- 2 アスピリン
- 3 タンニン酸アルブミン
- 4 ヒマシ油
- 5 アミノ安息香酸エチル

【問 1 1 9】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に記載される事項に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ブロモバレリル尿素が配合されたかぜ薬は、胎児障害の可能性があるので、添付文書の相談することの項において「妊婦又は妊娠していると思われる人」等として記載されている。
- b ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、乳汁中に移行する可能性があるため、添付文書の相談することの項において「授乳中の人」等として記載されている。
- c メチルエフェドリン塩酸塩が配合された内服薬は、偽アルドステロン症を生じやすいため、添付文書の相談することの項において「高齢者」等として記載されている。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	正	誤	正
3	正	正	誤
4	正	正	正
5	誤	正	誤

【問 1 2 0】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の「次の診断を受けた人」の項目中に記載されている基礎疾患と、それに関連する主な成分の正誤について、正しい組合せはどれか。

	基礎疾患		主な成分
a	腎臓病	—	酸化マグネシウム
b	てんかん	—	ジプロフィリン
c	緑内障	—	パパベリン塩酸塩

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	正	誤